



交通安全の価値を考える



小林 眞

愛知県春日井警察署長等を歴任し、平成28年より「AAKK」専務理事。
「安全運転を習慣とすること、そのための努力を惜しまないこと」を提案している。

第12回

必要な時間、大切な時間

自動車が生まれ、人が運転して荷物や家族を運び、幸せを運ぶようになったとき、人々は自動車の進化を期待しました。もっと安全に、もっと快適に走る車を望み、そして時代の技術者達はその期待に応え続けてきました。

やがて車は進化し、運転しやすく、快適になりました。しかし、安全性が向上するほど人はスピードを上げて車を走らせたため、車の進化に比例して事故が減っているとはいえません。

ところで、事故を起こさず、少し早く目的地に到着できたとして、そこに何が生まれてきたのでしょうか。スピードアップによる到着時間の短縮は、私たちに本当の幸せをもたらしたのでしょうか。

減少しているとはいえ、未だに交通事故死が繰り返される今日の交通事故情勢は、私たちが本当に望んでいたものだったのでしょうか。

果物ナイフは、リングの皮をむいたり食べやすく切り分けるために使います。その使い方を誤ると手を切つて血が流れますが、悪意がなければそれだけの命を奪うことはありません。

一方、自動車は、本来、安全で快適な乗り物です。しかし、使い方を誤つ

たり、小さな過失によって人の命を奪うことがあります。悪意などないのに、たくさんの命が失われています。

物は便利になるほど危険性は高くなります。進化することによってその便利さや快適さが強調され、危険性を感じるのが難しくなりますが、その危険性を知らなければなりません。それを取り返すことのできない結果を繰り返しているのです。

世の中は便利になり、車だけではなく、すべての物事がスピードアップしました。ニュースも豊富にスマホに届き、知識は増えました。しかし、現在を生きる私たちが本当に望むべきこと、大切にすべきことは何なのかについて考える時間が必要なのだと思います。そのひとつが、安全というものについての問いかけではないのでしょうか。

安心とはイメージであり、空想や期待感に過ぎませんが、安全とは現実であり、交通事故も現実です。交通事故、交通死亡事故とは、人の体が想像できない形に変わり果て、生暖かい血が流れる、その臭いに満ちた現実です。

毎日繰り返されている交通事故という現実を避けるためには、安全という

ものの価値を見つけることから始めなければなりません。価値とは、人から与えられるものではなく、自分で見つけるものであり、それを見つけない限り、安全運転を習慣とすることはできないからです。

そして、そのために費やされる時間こそ、私たちを守るための大切な時間なのだと思います。

事故を起こしてしまえば、どんな謝罪もその償いにはなりません。被害者の命を取り返すことはできず、その家族の悲しみ、失われた平穏、幸せを償うことなどできないからです。

そして、その車を運転していた加害者自身も豊かな人生を失い、家族にも終わることのない悲しみをもたらしますが、その加害者とは、明日の私たち自身なのかもしれないのです。

私たちが望んでいた社会とは、人も車も、大人も子どもも老人も、それぞれが支え合う豊かで安全な社会だったはず。

交通安全とその価値について考える時間、それは私たちに必要で大切な時間であり、大切な時間なのだと思います。